

柴北川プロジェクト通信 28号

— 平成24年度・第2回竹林整備 — 平成25年2月16日(土)～17日(日)

1. はじめに（渋滞を乗り越えて）

「何回も通う内にはこういうことがあっても当然」とは思うものの、大分自動車道での事故渋滞のため、16日(土)に予定されていた現場作業に参加できたのは、別途行動していた濱田会員のみとなりました。定刻、午前10時に博多駅前を出発した、山下会員、森脇会員と木寺は、4時間以上の遅延となり、夕刻に宿泊予定地の三重町に着くのがやっとで、そこで波多野会員と合流しました。

ということで、「2日目は昨日の分まで頑張ろう」との意気込みでの作業開始前の記念写真です。



写真一1 2日目の作業開始に先立って（後方には、1日目作業成果の竹炭）

2. 手慣れてきた竹炭づくり

「柴北川を愛する会」のメンバーは、「無煙炭化器を用いた竹炭づくり」は、もう手慣れてきたというレベルです。我々は未だそこまでとは行きませんが、だいぶ慣れてきました。

以下、作業の内容を、順番を追って紹介します。

- ・無煙炭化器セット → ・枯れた竹の小割 → ・着火 → ・燃焼 → ・燃焼終了確認 →
- ・水での冷却 → ・出来上がり

これらの様子は、以下のとおりです。



写真一2 無煙炭化器セット



写真一3 材料の竹の小割(2つ割程度)



写真一4 着火



写真一5 勢いが出てきた炎



写真一6 無煙炭化器の威力



写真一7 燃烧ほぼ終了



写真一8 冷却作業



写真一9 出来上がり

3. 竹チップ堆肥の切り返し作業も順調

竹チップ堆肥の切り返し作業も順調に進みました。

「柴北川を愛する会」の方々は、こちらの作業も慣れてきておられ、途中での水分補給等も段取り良く進みました。ご承知のように、堆肥の熟成（素材の有機物を、微生物の力でよく分解・発酵させること）には、空気、水分、時には追加の栄養分等も必要になります。

野積みした堆肥素材の中心部分では、温度も上がり、分解・発酵が進みますが、表面部分は温度が上がりにくいため、このためにも切り替えし作業（表層部分と中心部分が逆になるように、積み替えを行うこと）が必要になります。熟成への過程では水分や空気が不足してきますので、上記したように、切り替えし作業にはその補給を行うという、両方の意味があります。

なお、山積みした堆肥の中心部分は、高温（60°～80° C）になりますので、一般的な雑草の種子であれば、死滅させてしまう効果もあります。

作業は、竹炭製造と並行して行いましたが、その様子は、以下のとおりです。



写真-10 切り替えし前の状況



写真-11 切り替えし作業、その1
（湯気が出ている）



写真-12 切り替えし作業、その2



写真-13 シートを被せて作業完了

4. 楽しみの「焼き芋タイム」

共助研メンバーの大半は福岡市の近郊に住んでいるため、「焚き火での焼き芋づくり」の機会はありません。ただし、みんな、小さいころの焼き芋づくりの思い出があります。

共助研が、いつも焼き芋もおねだりするため、今回は、渡邊さんが「最上級の芋（甘太くん：甘太くんは大分県産の紅はるかを収穫後40日以上貯蔵して甘味を増した独自ブランド）」と「アルミホイール」を準備されていました。

コーヒーサービスまで付いた、「ぜいたくな焼き芋タイム」は、以下のとおりです。



写真－14 焼き芋用の焚き火を囲んで（中央が穴見会長）



写真－15 焼き芋取り出し



写真－16 コーヒーサービス付きの焼き芋

5. さいごに（春はもうすぐ）

作業を終えて、いつものように記念撮影を行いました。また、帰り際に、第2視点場のある成瀬谷の山桜の様子を確認しました。まだまだ、春通しという状況でしたが、この報文を書いている2月末には、今年の「桜の開花予想」が発表され、開花はほぼ平年並みということです。もうそこまで、待ち遠しい「長谷（柴北川流域）の山桜の開花時期」が来ています。

初日はトラブルに見舞われましたが、いつものように元気を頂いて、無事帰ることができました。次回は、3月2日（土）に、「タケノコで有名な合馬の視察」を合同で行うことが決まっていますので、そこでの再会を楽しみにしています。



写真一17 作業後の記念撮影



写真一18 開花が待ち遠しい成瀬谷

—— 青年は利己主義をもって終わり、老年は他者のための生活をもって始まる。決して美德からではなく、まったく自然により多く他者のために生きるようになる。—— ヘッセ「老年の価値」より

この心境まではまだまだですが・・・、感謝、感謝です。

（文責：木寺、写真：森脇）